



広島大学

広島大学大学院理学研究科
生物科学専攻

第9回 細胞生物学研究室セミナー

「細胞のかたちと機能」プロジェクト研究センター共催

2017年11月30日（木）16:30～17:30

理学部E棟002号室

三浦 正幸 博士

東京大学大学院薬学系研究科
遺伝学教室

体から細胞が失われることの意味に迫る

細胞運命は発生とともに不可逆性をもって進行する。しかし生体での細胞運命を詳しくみると、それほど厳密ではない姿も見えてくる。一度分化した上皮細胞が脱分化して神経細胞になることが線虫では観察されている。一度死にかけた細胞が何でもなかったように振る舞うアナスターシスという現象も培養細胞では観察されているが、細胞社会では、細胞死という不可逆な状態をも、あたかも何事もなかったかのように対処する仕方が発達してくる。例えば創傷で上皮細胞が失われても、分裂能をもつ周りの細胞が代償性に増えて修復される。腸上皮や血球系といった細胞再生系の組織では、分化した細胞が死んでしまっても、幹細胞によって補われ、あたかも細胞死がなかったかのように組織細胞の定足数は維持される。不可逆な細胞運命である細胞死は、恒常性をもって維持される生体ではどんな役割をもっているのか。カスパーゼの活性化生体イメージングと遺伝学的研究、組織傷害に関わる生体応答の研究からわかってきた細胞死による巧妙な生体機能調節を紹介する。

学部学生・大学院生・教員、参加自由です。

皆さまのご来場をお待ちしております。

連絡先：理学研究科生物科学専攻・細胞生物学研究室

千原崇裕（内線：7443）tchihara@hiroshima-u.ac.jp